



筋金が通っている学校

「しつけ」という言葉「躰」は、日本で考案された漢字(国字)で、この漢字を分解すると「身」と「美」になり、「身だしなみを美しくする」と解釈されています。また、「着物のしつけ」と結びつけたもので、「仮に縫い付けておくこと」、転じて「子どもが一人前になれるよう枠組みを与える」という解釈もあります。

どちらの解釈からも、「子どもがより良い人生を送るために、社会人として必要なことを、幼児のうち身に付けること」と理解できます。

森信三氏は「一語千鈞」(寺田一清編致知出版社)の本のなかで「学校のしつけ」について次のように述べています。

「学校のしつけは、まず靴箱のクツの踵(かかと)をキチンと揃えさすことから始まる。このしつけ一つが出来たら、全般にひとつの筋金が通りだすといってよかろう」

筋金を通るとは、「徹底している」「信念を持っている」という意味です。「靴箱のクツのかかとがきちんと揃えることができている学校は、その学校の教育理念が子どもたちにしっかり行き渡っている」ということなのでしょう。それほど、昔から学校でのしつけのなかで、「靴を揃えること」を最も大切にしていたのです。

これからが本題です。8月31日から9月2日の2泊3日で、本校の5学年66名が国立那須甲子少年自然の家で宿泊学習をしてきました。入所式が終わり、全員が宿舎に入りました。まず、玄関に入り私が最初に目にしたのは子どもたちの靴箱の様子でした。二小の子どもたちの靴箱は見事にきちんとそろえて並べられていたのです。「さすが須二小生だな」と感心させられました。その後、教師が意図的にその場で指導した訳ではなかったことを知り、再度感心させられました。



当たり前ようですが、学校以外のところで「靴のかかとを揃える」ということはなかなかできることではありません。二小の子どもたちは、どこでも靴箱に靴のかかとを揃えて置くということが自然と身に付いていたのです。私は、宿泊学習のスタートから大変うれしく思ったと同時に二小の子どもたちの素晴らしさも実感したのです。「筋金を通っている学校だ」と・・・。

最後に、長野県円福寺の住職藤本幸邦(ふじもとこうほう)さんがつくった「はきものをそろえる」という詩を紹介します。

「はきものをそろえる」

はきものをそろえると心もそろう
心がそろうとはきものもそろう
ぬぐときにそろえておくと
はくときに心がみだれない
だれかがみだしておいたら
だまってそろえておいてあげよう
そうすればきっと
世界中の人の心もそろうでしょう



5年生2泊3日の宿泊学習で大きく成長！

5年生66名は、8月31日から9月2日の3日間において国立那須甲子青少年自然の家で宿泊学習を行いました。当初の天気予報では3日間とも雨の予報でしたが、幸い天候にも恵まれ、予定していた登山、野外炊飯、ナイトハイク等の活動を全て行うことができました。子どもたちは学校内だけではできない貴重な体験をし、一回り大きく成長したような気がします。

男子のやさしさ 5年 服部 紗奈

私は、茶臼岳登山で、「男子ってやさしいんだなあ。」と思いました。

もうすぐゴールだという所で、女の子が足をひねってしまいました。私ともう一人の女子が肩を組んで歩いていると、男子が

「リュックを持ってあげるよ。」

と言って私たちのリュックを持って歩いてくれました。しかも、ちょこちょこ後ろを振り返り気にかけてくれていました。私はそれを見て

「男子って意外とやさしいんだなあ。」と思いました。

私も男子にやさしくしないといけないなあと思いました。やさしいっていいなあ。



特設合奏部46名 岩瀬地区音楽祭（合奏）に出場！

本校特設合奏部は、10月1日（木）に須賀川市文化センターで行われる岩瀬地区音楽祭に出場します。夏休みも返上して練習してきました。素晴らしい演奏にご期待ください。※12時30分演奏予定

合奏部 最後の一年 6年 村田 亜弥

私は、8月30日に行われたTBCコンクールで、去年まで上級生として頼りにしていた先輩がいなくて、自分が周りをまとめ、教える立場だということを改めて実感しました。大勢の前で楽器を吹くということは、とても勇気のいる事です。今までの練習は、その勇気を一人一人に与え、その与えられた勇気を客席にいる方々に伝えるものだと思います。約1ヶ月後に地区音楽祭があります。そこでは、TBCコンクールで得た教訓を生かし、より良い演奏をしていきたいと思っています。



8月29日（土）PTA奉仕作業 雨天のため校舎内の清掃となりました。お忙しい中ありがとうございました。



9月9日（水）給食試食会 37名参加 貴重なご意見をいただきました。